

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊田市こども発達センター たんぼぼ		
○保護者評価実施期間	2024年11月14日		～ 2024年12月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	2024年8月21日		～ 2024年8月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な職場研修実施による職員の資質向上 多職種連携によるきめ細やかな支援	たんぼぼは運動発達に支援が必要な子どもが通ってきているため、運動・摂食嚥下の発達、医療的ケア、感染症、身体拘束を含めた虐待防止についてなど幅広く知識が得られるようにしています。また、定期的に関係職員（医師、リハスタッフ、相談支援専門員など）との情報共有の機会を設けています。	さらなる研修の充実の他、のぞみ診療所医師を含めた関係職員との連携を密にし、子どもとご家族が安心、安全に利用していただける専門性を培っていきます。
2	事業所職員訪問看護師・保健師・市内こども園職員（保育士・看護師）の実習受け入れ、関係機関との会議への参加等、幅広い地域の関係機関との連携	たんぼぼの療育や支援を実際に見て、理解してもらえる機会を設けています。	重症心身障がい児、医療的ケア児の家庭を身近で支えている私たちたんぼぼ職員が問題を提起し、解決や改善に導けるよう努めます。
3	保護者勉強会、施設見学など	たんぼぼは家族通園施設のため、日頃から保護者支援には力を入れており、将来を考えるための講演会や施設見学、たんぼぼOBとの座談会などの他、各種勉強会や父親懇談会、調理実習などを企画、実施しています。	今年度ひさしぶりに実施した調理実習はとても好評だったため、来年度はより内容をブラッシュアップできるよう努めます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援計画の関係職員間の共有不足	定期的に関係職員（医師、リハスタッフ、相談支援専門員など）と連携していますが、児童発達支援計画の内容を全て共有できているかと言われるとできていない部分もありました。	計画立案から作成後の情報共有まで関係職員との情報共有を確実にできる仕組みづくりの検討。 多職種の意見を反映した計画の作成と、計画を反映した支援内容の提供。
2	保護者向けの勉強会、施設見学等の欠席者へのフォロー	勉強会、施設見学の日程の周知不足（現状は4月の園だよりに年間予定を掲載、また、開催の2ヵ月前に園だより、クラスだよりにてお知らせ）が考えられます。また、勉強会についての具体的な内容の周知不足により、参加することで何が得られるのかが分かりにくかったことが考えられます。	分かりやすい日程の周知方法の検討。 参加したいと思っただけにならないような周知方法の検討。 参加できなかった保護者への情報提供方法の検討。
3	1, 2歳児の交流機会の不足	1歳児、2歳児については、「身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う」ことを一番の目的としています。「欲求が満たされ安心して過ごす」「身近な大人と気持ちを通わせようとする」などの姿を大切に、周囲の子どもへの興味、関心が高まる3歳児から地域園での交流を計画しています。 地域園へ出向いて行う交流は3歳児からですが、全園児対象にこども園のお子さん（4歳児）がたんぼぼに来園し交流する機会（年1回）と、外来療育の子どもとたんぼぼの子どもとの交流の機会（年1回）を行っていますが、回数は少ないです。	全園児対象の交流について、次年度以降の回数増の検討。